

専念寺通信

6月号 (NO.166) <http://sennenji.s296.xrea.com/>

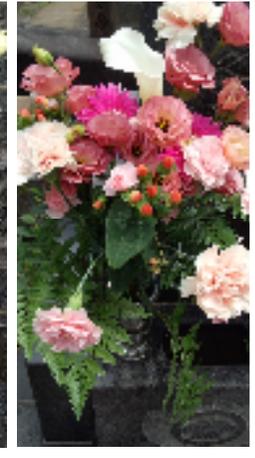
☆施餓鬼会大法要

5月25日、快晴に恵まれ、大勢の檀家さまを迎えて施餓鬼会法要がおこなわれました。11時の定刻通り、大玄関の喚鐘が打ち鳴らされ、浄土宗東京教区城西組牛込部のご住職7人と、専念寺の新住職の読経が始まりました。本堂に90名さまくらい、前庭のテント席に80名さま、そして書院を開け放し檀家さまにお入り頂きました。申込み者は203名、当日出席者196名をお迎えしての大法要でした。新住職は200本余りのお塔婆に水向けをし、塔婆施主名を読み上げました。今年も法要中に撒かれる散華を、お土産のお菓子のノシの内側に挟み込ませて頂きました。法要が終わり、新住職のご挨拶のあと、前住職もご挨拶させて頂きました。最後の同唱十念のときは200名の声がひとつに合わさり心が清められる思いが致しました。



今年は書院に上がるための階段を設置し、ベンチを設置、冷たい麦茶のための小さめの

紙コップを準備、など裏方としては工夫致しましたが、墓地のひしゃくの数足りなかったようで、檀家さまに



ご不便をおかけ致しました。写真は翌日の墓地の供花です。毎年「どんな美しい花園より美しい」と書かせて頂きました。ごく一部を、そっと掲載させて頂きますことをおゆるし下さい。清楚な、豪華な、可憐な、凛々しい、品のある、優しい、さまざまな花が墓地いっぱいにお供えしてあります。どの花も皆さまが心を込めて選ばれたものだからこそいっそう美しいのだと思いました。蝶々が嬉しそうに飛び交っていました。

小さな寺にこのようにたくさんの方々に来て下さること、そして亡くなった方のためにこのように美しい花をお供え下さること、私共は檀家さまの信仰心に頭が下がる思いです。新住職ともども、一同、

心を引き締めて法灯の護持につとめさせて頂きたいと存じます。
平成26年
6月1日
大黒

